

放送大学通信

# on air

オン・エア

no. 71

発行日 平成15年9月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111(代)

## CONTENTS

<b>歌舞伎四百年</b>	教授 渡辺 保	1
<b>統計データに見る放送大学生の動向</b>	教授 岩永雅也	5
<b>就任のあいさつ</b>	助教授 二河成男	7
<b>退任のあいさつ</b>	助教授 堂寺知成	7
<b>平成15年度開設改訂科目紹介</b>		8
日本政治史('03)	教授 天川 晃 / 政策研究大学院大学教授 御厨 貴	
英語 ('03)	助教授 大橋理枝	
近世日本の歴史('03)	教授 高木昭作 / 助教授 杉森哲也	
比較教育制度論('03)	教授 新井郁男 / 広島大学教授 二宮 皓	
<b>研究室だより</b>	教授 石川 統 / 教授 大橋英寿	10
<b>平成15年度第2学期教務スケジュール</b>		11
<b>科目登録申請を成績通知より先に行う理由</b>		11
<b>教務のお知らせ</b>		12

# 歌舞伎四百年

人間の探究 教授 渡辺 保

## 出雲のお国登場

今年はお国のお国が京都で歌舞伎踊りを上演したという記録がはじめて資料(『当代記』

慶長八年(1603)四月の項)に現れてから数えて四百年になります。「歌舞伎四百年」それを記念した様々な催しが行われました。

四百年と一口にいいますが、決して短い期間ではありません。この四百年の間に時代も大きく変わりましたが、歌舞伎もまた何度か変わっています。現に出雲のお国の舞台を描いた絵を見ますと、今日私たちが歌舞伎座や国立劇場で見ている歌舞伎とは全く違って見えます。

舞台は能舞台そのまま、能の囃子方と同じような地方(じかた)がいて、舞台の中央では一人お国が男装して踊っている。つまり舞台は能、役者は宝塚歌劇の男役と同じで、どこにも今日の歌舞伎と似たところがありません。この絵から今日の歌舞伎を想像することはだれにも出来ないと思います。ということはこの四百年の間に歌舞伎はいかに変わったか、今後変わるに違いないということです。

大きくいって、歌舞伎は、お国の時代から女歌舞伎、若衆歌舞伎、野郎歌舞伎という風にそ



「京鹿子娘道成寺」白拍子花子 六代目歌右衛門。その足さき、中啓を持つ手、それらが黄金分割の如きバランスを保って女を造形している。これが芸。(撮影 渡辺文雄/協力 松竹株式会社)

明、文化文政、天保、幕末と、およそ六・七回の変化をへて、明治の近代に至るのです。

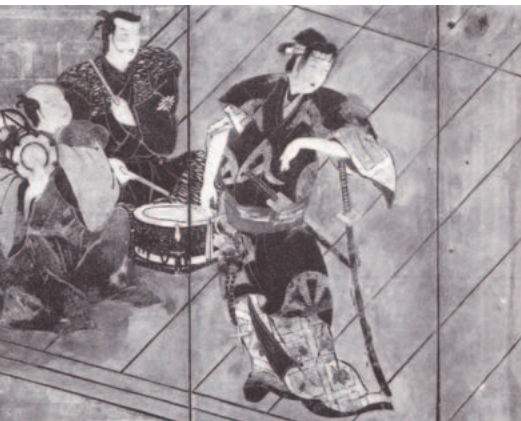
この変化によってむろん感覚が大きく変化した。たとえば私たちが今日見る「助六」は享保前後に二代目団十郎がつくったものですが、その感覚、その味わいは決して今日の「助六」の舞台とは同じではないでしょう。現に私が見た、20世紀の「助六」でさえ、七代目幸四郎、その長男十一代目団十郎、その孫十二代目団十郎、そして曾孫現新之助と四代にわたって衣裳や演出

の初期に激しく変化して、元禄時代に至って一応演劇としての体裁をなすようになりました。その後も、享保、宝暦、安永天



は同じでもその感覚が全く変わってきています。

しかしむしろ変わらないものもある。それは为什么呢。



出雲のお国の肖像。六曲屏風「お国歌舞伎図」。寛永期。右に刀をついた立ち姿の男装した女性がお国またはお国歌舞伎のメンバーの一人と思われている。左の坐った二人は、囃子方（地方）である。

## 幸四郎のホクロ

私は、この間、チャンスがあって文化文政時代の敵役の名人五代目幸四郎について二時間ばかり話をしました。自分も見たことがない役者について話すのは非常に難しいのですが、二時間の中で一番聴衆の反応があったのは、この人のホクロについて話した時です。

幸四郎は、顔の左の眉尻に大きなホクロがありました。しかも鼻が高い、俗に「鼻高幸四郎」とあだ名されたほどです。この人が敵役の名人だった。有名な鶴屋南北「四谷怪談」の作者ですが、この南北の書いた残酷な敵役はみんなこの幸四郎にはめて書いたものですから、幸四郎の敵役の凶悪さは、文化文政の爛熟しきった時代の文化の一面を象徴したものといっているでしょう。

とにかく、この人がグッと目を剥いて睨むと、客席の女子供はおびえて泣き出したほどだというから大変なものです。

その睨みで、鼻の高さとホクロが凄味になる。幸四郎はそれを強調するために「横見得」という演出を工夫しました。自分の横顔を見せるようにする角度の見得です。そうすると高い鼻、大きなホクロが強調されるからです。

この人の当り芸の代表は南北物

を別にすれば、「義経千本桜」のすし屋のいがみの権太、「伽羅先代萩」の仁木弾正などでした。そこで今でも権太と弾正は、菊五郎がやろうが団十郎がやろうが、眉尻にホクロを描いて、横見得をするのです。

このホクロは、幸四郎の芸への尊敬をあらわしていますが、同時に歌舞伎が身体伝承の演劇であることを示しています。すなわちホクロを描くことで幸四郎の身体になりきる、観たこともない幸四郎と一身同体になることを意味しています。

## 襲名の秘密

ここに実は古代以来日本文化の深層に流れている一つの考え方がかくされています。天皇制を支えた思想です。そういうと三島由紀夫の日本文化の源泉に天皇がかかわっているという言葉を出しますが、これは事実だから仕方ありません。

「万世一系」という言葉をご存知でしょう。この言葉の意味は普通「万世」つまり永遠に、「一系」一つの系統 天皇家が存続する意味だといわれています。しかし折口信夫の説はそうではない。天皇は即位する時に天皇霊を身につけます。身体は借り物の器（だからカラダという）で、天皇霊は一つしかない。神武天皇から今上天皇まで百何十人かの天皇は、霊が一つだから、同じ人格つまり同一人物だということです。「万世」にわたって「一人」。これが「万世一系」ということだそうです。

この気の遠くなるような奇怪な思想が実は日本文化に生きている、というよりもみんな天皇のマネをしたのです。

「家元」も「襲名」もみんなそうです。

この間十代目になった三津五郎が、襲名の時に浅草観音へお練りに行った時のことです。仲見世を「大和屋ッ」というかけ声のなかを歩いていると、自分一人が歩いているというよりも自分を含めて十人の三津五郎と一緒に歩いている

ような気がしたそうです。この感覚が襲名という制度の実質です。三津五郎は襲名の儀式をへながらこういう実感を得て「坂東三津五郎」という人格のなかに入っていたからです。その時十人は一人になる。「何代目」というのは、単なる識別のための符丁であって、「三津五郎」は一人なのです。

「万世一系」のマネなのです。こういう思想を前提にしてホクロを考えると、ホクロという記号は、五代目幸四郎と一身同体になるための儀式の手順であり、幸四郎の身体を身につけるための方法論であることがわかります。

五代目幸四郎は、そう、今でも歌舞伎の舞台に生きている、いがみの権太や仁木弾正を見れば、今でも私たちは幸四郎のホクロを見るのですから。



上は七代目幸四郎の「伽羅先代萩」の仁木弾正。下は六代目菊五郎の「義経千本桜」のすし屋のいがみの権太。横見得ではありませんがどちらにもホクロが左眉尻についています。

## 芸と型

ホクロはほんの一例にすぎません。

歌舞伎にはこのように変らない

伝統がある。どんな激しい時代の変化の中でも変わらずに伝えられているものがある。それは一体なにか、というのが、私の課題の一つです。私のというよりも、四百年を機にみんなが考えなければならぬ問題だろうと思います。なぜならば、この問題が明らかになった時にはじめて21世紀の歌舞伎の根幹がきまるからです。

さて、変らないのはホクロですが、このホクロはいわゆる「表象」であり、この「表象」は方法論を示しています。そしてこの方法論こそ、世界の演劇の中で、歌舞伎がもつユニークな表現の仕方だろうと思います。

具体的にこの方法論を支えているのは「芸」と「型」という二つの概念です。

明治の近代化以後、日本古来の言葉は多くのヨーロッパ近代の翻訳語によってかわられました。「芸」は「演技」になり、「型」は「演出」になりました。この言い替えは便利には違いないので私も時に利用することがありますが、それによって混同がおき、日本古来の言葉の示す方法論のユニークさをアイマイにしたことも事実です。

「芸」とは古来踊りのことをいうのですが、江戸時代には次のような方法論を示す言葉です。

## 歌右衛門と滝沢修

たとえば歌右衛門が「娘道成寺」を踊ったとします。歌右衛門は本名河村藤雄、レッキとした男性で



「炎の人 ゴッホ」大詰のゴッホ。滝沢修の「演技」によってゴッホが狂気から耳を切るシーン。その目がリアルに光っていることに注意。（劇団民芸提供）

す。ところが歌右衛門が舞台上で踊っている「娘道成寺」のヒロインは白拍子花子実は蛇体です。蛇体とは蛇の精ということですが、とにかく女性です。この状況で大事なことは、観客が目の前の女性が歌右衛門という男性だということ。これを十分に承知して見ているということです。歌舞伎はあえてそのことを隠しません。ということは観客は、男性である歌右衛門と女性である花子を同時に見ているということになります。

歌右衛門は一代の名女形でしたから、ある瞬間になると女性そのものようになります。しかもそこに深い味わいが生じます。奇蹟としかいいようがありません。この奇蹟が「芸」です。私たちは、男が女になり、女がまた男であるという瞬間、そのプロセスを見ながら、ある瞬間、この奇蹟に出会うのです。これは両性具有だの女装趣味などとは全く違って、ほとんどマジックに近い技術的なものであり、芸術的なテクニックと、そのテクニックを通してあらわれる演劇の表現です。

ところが現代劇ではどうか。

三好十郎の書いた「炎の人 ゴッホ」という芝居があります。名優滝沢修の当り芸でした。あの有名な画家のヴィンセント・ヴァン・ゴッホですが、晩年には神経を病んで、自分の耳を切るという事件を起こしました。芝居ではそこが大詰になりますが、滝沢修はここで自分を捨ててゴッホその人の狂気を見せます。錯乱と妄想にかられたゴッホが耳を切るところはゾッとするようなすごさで、滝沢修はゴッホその人になりきってリアルにその狂気を演じます。リアリズムの極致ですが、この時観客はそれが芝居ではなく、ほとんど本当のことだという風に受けとめるのです。ほんの一時のことにせよ、滝沢修が演じていること、フィクションであることを忘れる、そのようにつくられているのがリアリズム演劇であり、現代劇はこのリアリズムの上に成り立っているのです。

そのための方法論は、スタニス

ラフスキーという演出家を書いた『俳優修業』や滝沢修自身の著書『俳優の創造』を読むと、ほとんど近代科学に似た精密なものです。そこで追求されているのが「演技」です。

「芸」とは全く違う「演技」。歌右衛門と滝沢修。

## 芸と演技の違い

二人とも20世紀の日本演劇を代表する名優ですが、その方法論は全く違います。その違いは三点あります。第一に「芸」と「演技」の違い、第二にその演劇の構造の違い、そして第三にその背後にある人間観の違いです。

「芸」と「演技」の違いは、すでに触れたとおりその役と役者との関係の違いです。私は「芸」は手品に似ているといいましたが手品師と同様「役者」は「芸」をする人間としての主体を観客の視線にさらしています。「役」はその視線の先に生まれてきます。

一方「演技」は「俳優」としての人格を消して役のみを舞台に生かすものです。舞台にはゴッホだけが生きていて、滝沢修は本来そこには存在しないのです。このことが単に方法論の違いを意味するばかりでなく、舞台の感覚の基準の違いを意味することはいうまでもありません。女形が白拍子花子の現実ではなく虚構、そして虚構だけが発見する真実を描くのに対して、ゴッホは虚構を否定して現実そのものを再現するのです。そこに「演技」の現実模倣の意味があるのでしょうか。

この事実、第二の演劇観の違いに及びます。歌舞伎では常に舞台は虚構であり、役者の手の内は観客の眼前にさらされています。これはブレイトがとなえた異化作用と同じく批評の力を持っています。同化と異化、虚構と現実、その両者の間に成立するのが演劇だという考え方です。おそらくこの考え方は、単に歌舞伎のみならず、ギリシャ以来2000年の間世界中の演劇の深層を流れてきた考え方であって、たとえば女形なども

# 統計データに見る放送大学生の動向

発達と教育 教授 岩永 雅也

その結果生まれたに過ぎません。

## 女形という方法

女形が歌舞伎だけのものかと思つたのは間違いです。御承知の通り、日本の古典劇は能、狂言、文楽、歌舞伎の四つしかありませんが、四つとも女性の役は男性が演じます。しかし日本ばかりでなく、ギリシャ悲劇以来、シェイクスピアまで、近代になって女優が誕生するまでの演劇は、世界中どこでも女形だったのです。それは宗教上のあるいは風紀上の理由によるものですが、根底には演劇そのものが現実とは異次元のものだったからに他ならないでしょう。

ということは舞台は現実とは異なる世界に属していたのです。ところが、近代になって自然主義リアリズムがあらわれて舞台は現実の場となりました。そのことがゴッホの「演技」を生むのです。これはあきらかに演劇観の違いでしょう。

この演劇観の違いを生むのは、「人間」に対する考え方の違いです。誤解をおそれずにいえば、歌舞伎の人間は一種の典型であって個人ではありません。白拍子花子は「道成寺」伝説のなかに生きる女であると同時に、踊りの中で娘、遊女、人妻と様々な人格に変化する「女」の集合体なのです。一応今日では花子という役の名前がついていますが、この役名が固定するのは幕末であって、初演の横笛という名前以来、桜木だのなんだのといろいろに変化して今日に至ったので、純粋に一人の女を指しているわけではないのです。

一方、ヴィンセント・ヴァン・ゴッホは、近代的な自我をもつ一人の個人です。彼の中には個人的な性格も心理もある。私たちと同じ人間に違いありません。

この人間に対する考え方の違いは、その作品が生まれた時代の人間の見方の違いによるのです。現代では人間はあくまで個人であり、たとえば一人の女を集合体と考えることは出来ない。しかしそれが古典劇の視点であり、その視点は

私たちの失った視点へのヒントになると思います。そしてこの視点の違いが第三点であり、この第三点こそが第一、第二点を支えているものに他なりません。

## 型の方法論

こういう「芸」と「演技」の違いを支えているのが、「型」と「演出」の違いです。

歌舞伎ではきまった一静止したポーズを「きまり」あるいは「形(かたち)」といいます。たとえば五代目幸四郎以来といわれる権太の花道七三のすし桶を抱えた横見得が「形」です。それに対してその「形」をふくめ、「形」に運んで行くまでのプロセス全体を「型」といいます。「型」は瞬間の連続ですから形にならぬ微細なつながり、芝居の流れにその基本があります。この「型」を演じることによって「芸」の奇蹟がおきるのです。ですからこの「型」が実は「芸」を支えているわけです。したがって「型」は、役者個人の所有物であり、役者の身体に合わせてつくられたもので、戯曲のテキストからは時に独立しているのです。

これに対して「演出」は演出家が戯曲のテキストに沿って、テーマを描き出す為に組み立てたもので、俳優個人個人の所有物ではなく、全体のアンサンブルによってテーマを浮かび上がらせる全体です。俳優はいかに名優でも、この全体の部分にすぎません。したがって滝沢修といえども、その「演技」はそれ自体自己主張できるわけではなく、テーマの中の部分にすぎないのです。そこが「型」と「演出」の大きく違うところです。

この「型」によって歌舞伎の「芸」は、表現主義的な光彩をはなち、演劇的なエネルギーをもっているのです。その表現の力は単に古典劇のそれとしてばかりでなく、現代演劇にも強い暗示になるでしょう。現にこの間来日したフランスの太陽劇団は、歌舞伎と同一線上にある淡路の人形芝居の動きを取り入れていましたし、ディズニー製作のミュージカル「ライ

オン・キング」にも同様の手法が取り入れられていました。

しかし現実には、この歌舞伎の基本構造が余りよくわかっている人が少ない。役者にさえそういう認識が欠けているほどですから、一般の観客ではなおのことです。

## 放送大学の使命

私は、この基本的な構造を出来るだけ多くの人に理解して貰いたい。たとえば毎年国立劇場の六、七月に行われる歌舞伎鑑賞教室には毎年何万人という高校生が歌舞伎を見に来ますが、彼等にはほとんど事前になんの説明も行われず、今私がお話したような基本的なことを先生方でさえ知らない。つまり無知が問題なのは高校生ではなくて大人のほうであり、社会人そのもののほうなのです。

放送大学の教育は、こういう無知の除去にこそ意味があるのだし、放送教育の利点もそこにあります。

しかし大学の大事なことは同時に研究です。この基本的な知識が新しいとらえ方でとらえ直され、その抱えている問題がさらに深く探究される必要があります。

今、私は「型」を研究していますが、その時重要なのは、歌舞伎の「型」を「型」として単に扱うのではなく、その「型」が役者の身体との間にどのような関係を持ち、どのような身体言語を形成しているかという問題です。「型」も一つの言語であり、その言語がどのような構造をもつものなのか、文化の伝える言語がどのように形成されるかです。このことがはっきりすることが、おそらく四百年の歴史を経た歌舞伎の将来を占うために最も重要なものになるだろうと思います。

そのためには、歌舞伎の方法論が演劇一般の中で一つの方法論として論じられ、同時にグローバルな視点のなかで分析される必要があるだろうと思います。

この研究が大事だと思つたので、それが放送大学の将来の事業の一つになる事を願っています。

## 放送大学における統計データ

放送大学は、日本全国に学生を持つ巨大な遠隔大学である。日常的な通知も学内の掲示板に張り出して終わりというわけにはいかないし、延べ20万人にも達する学生が全国で一斉に受験する単位認定試験の統括も、紙と鉛筆による作業の域をはるかに超えている。そこで放送大学では、開学以来、全ての教務、学務データを大型コンピュータで一括して取り扱う集中

管理方式がとられてきた。われわれは、開学20周年の節目を迎えるにあたり、放送大学の来し方の一端を整理すべく、学生実態調査の一環として、それら蓄積されたデータのエッセンス部分を経年的に検討してみることにした。

今回は、1989年度以来のデータ(比較のため第1学期のみ)を対象として、十数年間の推移という観点から基礎的な整理と検討を行った。1989年度からとしたのは、それ以前の3学期制の時期と現制度の2学期制との間にさまざまな条件の差違が考えられたからであ

る。また、発足したばかりで経年変化を得られない大学院関係のデータも、今回は対象から外してある。データに含まれる変数は、性、年齢階層、学生種、専攻、所属学習センター、職業、入学時の学歴、科目登録状況、単位認定試験に関する諸指標、卒業状況、等々である。もちろん、個々のデータはプライバシーに関わっているため、個人を特定できる形での利用は行えない。したがって、ここで扱う全てのデータは、何らかの категорияに括られたもののみであることをお断りしておきたい。

## 在籍者数の変化

まず、在学生(大学院生を除く、以下同)の量的推移を全体的に見よう(図1)。放送授業開始以来一貫して増加傾向にはあるが、増加率は一様ではなく、大きく見ると、「増加率の増加」という現象がこれまでに3回にわたって生じていることがわかる。その背景としては、90年度から92年度:全国展開の開始期、94年度と95年度:ビデオ学習センターの地域学習センターへの改組、98年度から00年度:全国放送と全学習センターでの全科履修生の受け入れ開始、がそれぞれ対応している。つまり、放送大学は制度上の改変を行うたびに、それらをバネとして学生数を増やしてきたのである。一方、最近の増加率急減の背景には大学院の設置があると思われる。特に再入学希望者の多くが大学院入学へと向かったことが強い影響を及ぼしているのだろう。

在学生の属性別構成比を見たも

図1 在学生数とその増加率の推移

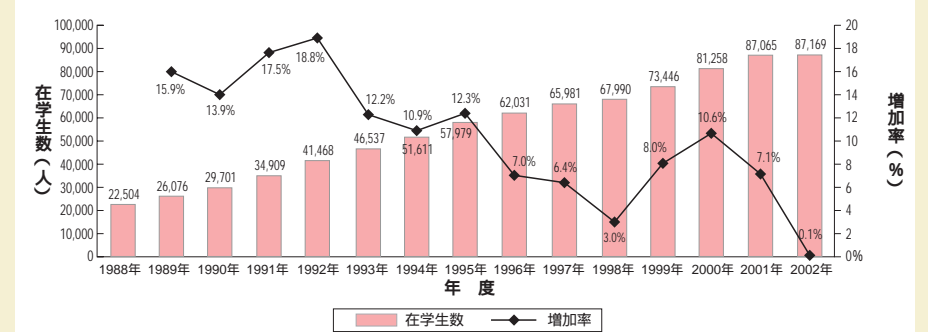


表1 在学生の属性別構成比(イタリックは最多カテゴリー)

	性別		年齢階層別				入学時学歴別			
	男性	女性	29以下	30代	40代	50代	60代以上	高卒等	短大卒等	大卒等
1989年	51.6	48.4	33.6	25.7	22.0	12.0	6.6	63.3	16.0	15.3
1995年	45.2	54.8	34.1	22.6	21.6	11.9	9.8	47.4	26.5	24.2
2002年	44.0	56.0	23.8	28.1	19.9	15.9	12.3	41.9	33.6	22.6

のが表1である。性別では、当初男性比率がやや高かったものの、全国化の進展とともに逆転し、以後常に10ポイント程度女性の比率が上回っている。年齢階層別では、若年層の減少と高齢者の増加が見て取れる。現在の最多年齢層

は30代である。入学時の学歴別では、高卒層が最多であることは変わらないものの、その比率は開学当初より20ポイント以上低下している。その分、短大や専門学校の卒業者が急増しているが、大卒の比率も漸増傾向にある。

## 学生種別と専攻別の構成

表2からもわかるように、全国化が進められた過程での学生数の増加は、選科履修生の増加が反映したものだった。その間全科履修生の人数はほとんど不変であり、全体数が増えた分だけ比率が減少したのである。99年の南関東以外の学習センターでの全科履修生受け入れ以降、その比率は急速に回復した。

表2 在学生の学生種別および専攻別構成比(イタリックは最多カテゴリー) (%)

年	学生種別			専攻別(全科履修生のみ)					
	全科生	選科生	その他	生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と技術	人間の探究	自然の理解
1989年	<b>68.0</b>	14.6	17.4	15.4	18.4	13.3	12.4	<b>27.4</b>	13.1
1995年	<b>44.4</b>	34.8	20.8	<b>25.2</b>	21.5	13.0	11.1	19.3	10.0
2002年	<b>64.6</b>	21.4	14.0	24.9	<b>28.8</b>	12.7	8.8	16.4	8.4

全科履修生を専攻別に見ると、発達と教育、生活と福祉が飛び抜けて多いことがわかる。02年の最多専攻と最少専攻の差は実に20ポイント以上である。これは当初

からのことではなく、全国で全科履修生を受け入れるようになった99年からの傾向である。一方、人間の探究所属学生の減少も目立つ。

## 科目登録と単位の履修

次に科目登録状況を見よう。最近では毎学期6万人以上が科目登録をしているが、逆に、それ以外の学生は在籍しながら科目無登録の学生ということになる。図2の縦棒は無登録学生の比率を示したものである。最近になって急速に増加していることがわかる。02年度第1学期現在で26.4%に上っているが、これは最も低率であった98年(19.9%)の約1.3倍の数値である。また、折れ線は科目登録者1人あたりの平均登録科目数を示しているが、これを見ると、全科生比率の低かった90年代半ばに最も少なくなり、全科生比率の上昇とともに漸増してきていることが看取しうる。

ただし、こうした無登録状態を怠業だと一義的に捉えるのは適切ではない。というのも、そのように自分の生活スケジュールに合わせた休みながらの学習が自由に行えることも放送大学の利点の一つとなっているからである。

放送大学の単位認定試験には記

図2 科目無登録学生数と平均登録科目数の推移

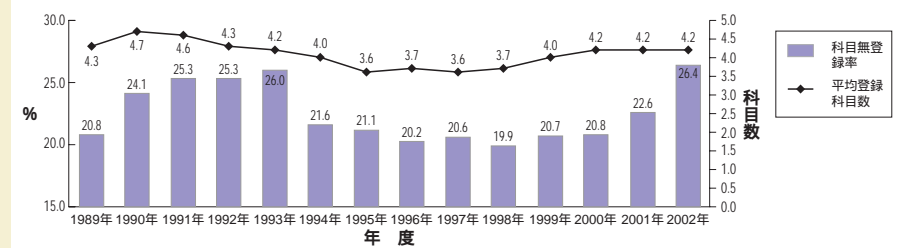
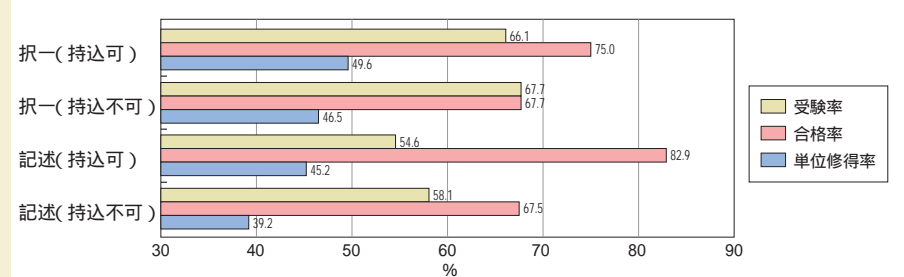


図3 試験のタイプ別に見た受験率、合格率、単位修得率(2002年度第1学期)



述式と択一式があり、それぞれ印刷教材等の持込可の場合と不可の場合がある。それぞれについて受験率(受験者/科目登録者)、合格率(合格者/受験者)そして単位修得率(合格者/科目登録者)を見たのが図3である。受験率の高いのは択一式で、持込可、不可ともに2/3の登録者が受験している。とりあえず受験だけはしておこうという層も少なくないと思われる。記述式になると受験率は低

下するが、不勉強で何も書けないと思われる場合、記述式では受験しにくいのであろう。一方、合格率の最も高いのは記述式の持込可で、実に80%以上が合格している。持込不可の場合、合格率はかなり低くなっている。そうしたことから、最終的な単位修得率は、択一式の持込可が最も高く、記述式の持込不可で最も低いという結果となった。その差は約10ポイントである。

## 卒業の動向

全科履修生は必ずしも4年で卒業するわけではない。むしろそれは稀なケースである。そこで、累積卒業率が重要視される。02年3月までに、98年度入学者の7%、97年度入学者の12.2%、96年度

入学者の17.2%、そして95年度入学者の26.1%が卒業している。

累積卒業率は、毎年概ね20~30%で推移している。この値は他の通信制大学と比べ10ポイント以上も高いものとなっている。さらに、3年次編入者ではそれが50%前後に上昇する。種々の事由により、編入の場合は卒業が比較

的容易だと考えられる。また、卒業後に再入学する学生の比率が高いのも本学の特徴であり、02年度の全科入学者の実に11%が再入学者であった。

今後、卒業率と再入学率をさらに引き上げることも放送大学に課せられた重要な課題の一つであろう。

## 就任のあいさつ



### 異なる視点

自然の理解 助教授 にこう なるお 二河 成男

この6月に放送大学の一員に加わりました。研究対象は生物の遺伝や進化ですが、統計やコンピューターを用いたDNA配列のデータ解析から、その本質に迫ろうとしています。そのため、生物学でも、DNAから集

団までの幅広い理解を必要とします。さらに、統計学、情報学、コンピューターサイエンス、語学(英語)などの、様々な分野の知識や技術を利用する必要があります。私は学部学生のとくに分子生物学を学んでいました。何気なく手にした一冊の本をきっかけに、DNA配列の進化に興味を抱き、会ったこともない先生のゼミに参加しました。そして、ゲーム機としか思っていなかったコンピューターを用いて、その先生の下で大学

院での研究を行なうこととなりました。その後も様々な視点を持った人々や書物との関わり合いから、研究対象へのアプローチを模索してきました。放送大学の学生のみならず、自分とは異なる視点を持つ授業や、書物、あるいは、人々と接する機会を大切にしたいと思えます。多様な価値観に触れることが、自分自身の殻を破るきっかけとなります。教員としてそのお手伝いできればと思っています。

## 退任のあいさつ



### 数理は鍵

自然の理解 助教授 どうら ともなり 堂寺 知成

埼玉学習センターで9年3ヶ月余りを過ごし、現在は京都大学大学院高分子化学専攻、桂キャンパスで働いています。

さて、在職中、全国で立派な学習センターも次々に新設され、衛星放送も流れるようになりました。これだけ学生集めをしていただければ、学生数が少ないはずもないのですが、特に数理系自然科学の人気は低調

で、物理学者として随分と気になっておりました。特に数学に関しては、予備校と提携して高校数学の段階からサービスできたと思うのです。とは言うものの、一般の教養番組が厳密性を犠牲にして見栄えばかりに流れる中で、論理的に考えることを学べる大学講義としての放送大学の存在は重要です。

数学は役に立たない代表格としてやり玉にあげられがちですが、数理的思考が無意識に人を助けていることを、「現象の数理(03)」の岡本先生はそのままがきで指摘されています。例えば「使える数理リテラシー(03)」

から、数理的学問に挑戦してください。また、印刷教材の文献にあげられた名著、専門書の一冊を、計算を確かめながらじっくりと読んでみると、あなたの中の何か(例えば論理的思考能力)が変わるはず。数学と語学は大変ですが、それだからこそ大学の学問の鍵なのです。

最後に「初等微分積分学(02)」を学んだ後は、小生の「運動と力(01)」、次に「エネルギーと熱(03)」の履修をご考慮ください。あなたの前のテレビもエアコンもコンピューターも「物理(の世界(03))」の賜物です。では、さようなら。

# 平成15年度開設改訂科目紹介

## 日本政治史(03)

これまでラジオ番組として作られていた「日本政治史」を今回からテレビの番組として制作することになった。これに伴って、というわけではないが、内容をいくつかあらためた。

まず、21世紀の初めにつくる講義でもあり、副題を「20世紀の日本政治」として、明治の中期から平成初頭までを扱うこととした。一般的な「日本政治史」の講義では、幕末・明治維新あたりから始まり第二次大戦あたりまでが詳述されるのが通例だが、これに比べるとこの講義では第二次大戦後のウエイトが大きくなっている。「戦後」生まれが人口の過半を占めるようになった現在、このことは必要であると思われるが、まだまだ同時代としての記憶が生々しく「歴史」として扱うことには難しい点も少なくない。

20世紀の前半を御厨貴教授が、

後半を天川晃が主任講師として担当した。これに加えて毎回、第一線の研究者をゲストに招いて、関連するトピックについて話をしてもらっている。「歴史は物語」でもある。さまざまな語り手の語り口を通じて歴史を学ぶことの楽しみを味わってもらいたい。

これまで文献や文書を中心に研究してきたわれわれが、日本近代史の映像資料を十分に活用した放送教材を作れたかとなると課題は残る。とはいえ、この講義から



天川教授

社会と経済 教授 天川 晃  
政策研究大学院大学 教授 御厨 貴

副産物も生まれた。近年、精力的に「オーラル・ヒストリー」に取り組んできた御厨と、自治体史の編さんなどを通じて公文書館のあり方に関心を持ってきた天川が、「現代史研究と資料保存」というラジオ特別講義を制作することになった。こちらは04年度からの放送であるが、「日本政治史」の各論として聞いていただければ幸いである。



御厨教授

## 英語I(03)

今からそう遠くない一時期、日本の文化は日本人以外には理解できないものだ、という考えが広まっていたことがあったように思う。日本文化の真髄は言葉を使って伝えられるものではない、理解できるのは同じ文化を共有している者たちの間だけである - このような考え方は、今日でも完全に廃れたとは言いきれないだろう。

しかしながら、言語というものが伝達機能をもっている限り、言葉では伝えられないと決めつけてしまって良いのだろうか。せめて、言葉を使って説明する努力だけは、するべきなのではないだろうか。

そのための格好のお手本のうちのひとつが、岡倉天心が英語で書いた *The Book of Tea* (邦題:『茶の本』) であると、私は思っている。

英語(03)では、その *The Book of Tea* の第1章から第4章までの部分からの抜粋を、一部簡単な英語に書き換えたものを主教材として用いている。また、テキストの中で扱った内容などに関連する点について、この科目の共同制作者ともいえるアメリカ人のサイラス・ロルビン氏と会話を行い、日本を外から見た視点というものも取り入れてみるようにした。天心が百年前に述べていたことを見直してみることを通じて、

人間の探究 助教授 大橋 理枝

自分が無意識のうちに浸っていた「日本文化」を振り返ったり、いかにしてそれを言語化して他者に伝えるかを考えたり、更にはどうやってそれを外国語で説明するかヒントを得たりして頂ければ、誠に嬉しく思う。



## 近世日本の歴史(03)

今回の講義は、私と、鶴田啓(対外関係、外交)・塚田孝(身分、差別)・久留島浩(農村、自治)・杉森哲也(城下町、都市)の5人でそれぞれ3章づつを担当します。

この番組を私は、かれこれ半世紀前に大学の教養学部で受けた日本史の講義を思い出しながら作ってきたつもりであります。その時に大変に不満に感じていたことが二十歳前の生意気ざかりの学生ということも確かにあったとは思いますが 二つありました。ひとつは、教養部の講義はすべて高校の延長で、やたらと詳しくただけ、というものでした。なぜそのような結論が出て来るのか、その過程については全くか、あるいはおざなりにしか教えてもらえませんでした。これが不満の第2

です。この反省の上に、今回の講義では近世史の最新の成果を少なくとも紹介しよう、ということを目指しました。鶴田さんをはじめ4人の講師は、それぞれの分野の第一線で論文を発表してる人たちばかりであり、この目標はある程度満足させることができたと自負しております。しかし、不満の第2の点、史料からどのようにして



高木教授

人間の探究 教授 高木 昭作  
人間の探究 助教授 杉森 哲也

結論を導くかという、実証科学としての日本史学の根幹にかかわる点は、3回づつの講義では不可能で、この点について、通信指導問題で不十分ながらふれることにしました。印刷教材には書いてない問題ですがやさしい問題ですので、受講する皆さんが努力して解答されるようお願いする次第です。



杉森助教授

## 比較教育制度論(03)

いまわが国を含め世界の多くの国では、急激な社会変化のなかで、教育制度の大転換をはかりつつある。各国は新しい学校のあり方を模索し、いかにすれば生徒の学力を改善・向上させることができるかに多大のエネルギーを費やしている。教育課程の国家基準が設定され、学力を評価するテストが開発・導入されている。また、OECDのような国際機関では、近年多くの国で国語・理科・数学の国際比較学力調査を行っている。

近代的な教育制度の限界を超越し、知識社会・生涯学習社会における学力を形成する学校制度が迫られているのである。そうしたなかで、わが国では、教育を受ける側の学校選択の自由化など市場原理を導入する動きが強くなりつ

つある。

生きた人間の育成を目的とする教育は、自然科学の場合のような実験を行うことはできない。その意味で、どのような制度のもとでどのような効果が期待できるのか、どのような問題があるのか、といったことは先行事例の中に見出だすことが重要である。「比較教育制度論」の意義もそこにある。



新井教授

発達と教育 教授 新井 郁男  
広島大学 教授 二宮 皓

このような視点にたつて、この科目では、わが国の明治時代以降における外国教育制度の受容過程、アメリカ・ドイツ・フランス・ロシア・韓国の初等・中等・高等教育制度の現状・動向などを、それぞれの専門家によって解説している。また、学校制度解体論の動き・意義についても考察している。



二宮教授

## 細胞の中の細胞

地球上には実に多種多様な生物たちがいるが、もとをただせば、われわれ人類を含めて生物たちの祖先はたった1つである。この1つが2つへ、2つが4つへと分岐をくり返すことによって種は多様化して現在に至ったのだと信じられている。大筋はもちろんそのとおりだが、1つ忘れられがちなのは、生物の進化には、分岐したものをもう1度組み合わせるといったレパトリーもあるという事実である。このレパトリーの重要性については、誰もが納得できる例が少なくとも1つある。われわれが酸素の利用によって有機物を効率よく分解してエネルギーをとり出せるのは、細胞がミトコ

ンドリアとよばれる小器官をもっているからである。ところが、この小器官は今から十数億年前までは、それ自体が独立の細胞であったという強い証拠がある。つまり、それ以前にすでに別物として分かれていた2種類の細胞が、十数億年前にもう1度一緒になることによって、効率よく有機物のエネルギーを利用できる生物が生まれたのである。長い生物進化のプロセスの中でも、これはもっとも重要な出来事と位置づけられている。

1つの細胞が別種の細胞の中に入り込み、世代を越えて安定に維持される現象を細胞内共生という。細胞内共生の1つの「結論」はミトコンドリアに求め

自然の理解 教授 石川 統

られるが、自然界には別の結論に向かって進みつつある、現在進行形の細胞内共生が多数みられる。ここ25年ほどの私の興味の焦点はそのような現象に絞られている。



## フィールドワーク再開

東北大学から放送大学へ移って1年。気分一新で研究再開です。テーマは二つ。

一つはシャーマニズムで、青森県の津軽と沖縄が通いなれたフィールドです。世相を反映してか、“救い”や“癒し”がよく話題にされる昨今ですが、それ自体は特別目新しいことではありません。どの民族もどの地域も自分たちの人間観や世界観にフィットした心の救済システムをそれぞれに培ってきたのであり、その重要な担い手が、シャーマンと一括される土着の宗教的職能者ではなかったのか。ということで、シャーマニズムにひそむ救いや癒しの諸相を現代

の心理療法と比較しながら探っています。

もう一つは、南米の日系移民の動向です。ボリビア東部のアマゾン源流へ集団入植して作りあげた、「コロニア」とよばれる農業移住地がわれわれのフィールド。そこで生まれ育った二世、三世たちが、いま出稼ぎや研修で日本へ来ています。かれらが集住する横浜の鶴見区には南米料理店が数軒あり、そこへ出向けば「アミーゴ」と再会できるのです。自在に国境を越える国際移動民のグローバル化をにらみながら、かれらの日本体験と生活戦略を追っています。

もう一つつけ加えると、補助

社会と経済 教授 大橋 英寿

教材としてのCD-ROMの制作があります。来春開講を予定しているラジオでの講義「フィールド社会心理学」にむけて、試行的にCD-ROMを開発してみたいのです。



## 平成15年度第2学期教務スケジュール

学部(教養学部)						
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第2学期の授業	1(水)		28(日) 29(月)	4(日) 5(月) 20(火) 21(水)		31(水)
	放送授業期間			ゆとり期間	放送授業期間	集中放送授業期間
第2学期の学習	4(火)	5(金)	21(日)		3(火) 19(木)	
	面接授業(毎週型)				面接授業(集中型)	
平成16年度第1学期の準備	11(土)	面接授業(土日型)				
	下旬-上旬	通信指導の送付	2(火) 必着	中旬	22(木) 28(水)	中旬
	12(水) 消印	18(火) 必着	2(火) 10(水)	中旬	単位認定試験通知(受験票)の送付	成績通知の送付
	面接授業(集中型)の科目登録申請		面接授業(集中型)の授業料納入		面接授業(集中型)の追加登録	
			15(月)	平成16年度第1学期出願(平成15年度第2学期で学籍切れの学生)		29(日) 必着
			上旬	科目登録申請要項送付	2(火) 消印	1(火) 必着
				第1学期科目登録申請		上旬
						科目登録決定通知の送付
						印刷教材の送付
						授業料納入

大学院(文化科学研究科)						
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第2学期の授業	1(水)		28(日) 29(月)	4(日) 5(月) 20(火) 21(水)		31(水)
	放送授業期間			ゆとり期間	放送授業期間	集中放送授業期間
履修関係	下旬-上旬	通信指導の送付	2(火) 必着	中旬	3(金) 3(土)	中旬
			通信指導提出	中旬	単位認定試験通知(受験票)の送付	成績通知の送付
平成16年度第1学期の準備				上旬	27(火) 消印	10(火) 必着
				科目登録申請要項の送付	第1学期科目登録申請	
			15(月)	平成16年度第1学期出願		29(日) 必着
				上旬		合格通知書の送付
						授業料納入
						印刷教材の送付

### 科目登録申請を成績通知より先に行う理由

#### 質問

放送大学で各学期ごとに科目登録を行う際、当該学期に単位認定試験を受験した科目の可否通知を受け取る以前に、次学期の科目登録をしなければならないのは、履修計画が立てにくく不都合なので、成績通知を受領した後、科目登録ができるようにしていただけませんか。

#### 回答

本学は通信制大学であるため、学生・教員の方々への連絡・事務手続き等は、ほとんど郵便のやり取りで行います。また、業務の多くは電算処理を行いますが、様々な業務処理を並行して行うため、入念にチェック作業を行います。

さらに、本学は2学期制をとっており、学期開始1日目から放送授業が開始されます。このため、1学期(半年)内に放送授業・通信指導・単位認定試験・単位認定などの一連の業務を処理しながら、次学期の出願受付・科目登録・印刷教材送付を並行して行っています。学期開始時に授業に支障が無いようにするには、各処理が1学期内に完結しなくてはなりません。

これらの事情を考慮した結果が、現行の教務スケジュールです。

さて、単位認定試験の結果が判明してから次学期の科目登録申請ができるように教務スケジュールを組む方法としては放送授業期間の短縮、単位認定試験の採点・評価期間の短縮、学費納入期間の短縮が考えられます。

しかし、放送授業期間の短縮は教育サービスの低下につながる他、放送時間枠の余裕が無いため困難です。単位認定試験の採点・評価の短縮は、記述式設問を採点するのに時間を要すると、採点・評価ミスを防止する必要性から困難です。また学費納入期間の短縮は、学生の方々に大変なご迷惑をおかけしてしまいます。

このように、現行の教務システムの下では、学生の方々が成績通知書の内容を確認した後科目登録申請を行う日程を組む事は、非常に困難です。従って、科目登録申請を成績通知より後に行うには、教務システム(電算処理を含む)・教務スケジュールの抜本的な見直しが必要になります。また、履修計画の過密化等の教育サービス低下を招かないように、慎重に検討しなくてはなりません。

学生の皆さんには大変ご迷惑をおかけしている所ですが、現行の教務スケジュールについてのご理解・ご協力のほどをお願いいたします。

## 「住所等変更届」の提出について(お願い)

ここ数年、印刷教材等について、受取人不在による返送が非常に多く見受けられます。

印刷教材等については、学生の皆さんが、放送授業等を受講される際に、学習に支障がないよう、迅速な発送を心がけておりますが、郵便という通信制の「命綱」がうまく機能しないことにより、放送授業開始時に教材がお手元に届いていないケースは、以下のことを行っていただくことで、その多くが解消すると思われます。

1. 印刷教材等が、送付される時期には、郵便受けをこまめにご確認いただき、印刷教材等(第4種郵便)または、郵便局からのご不在連絡票が、投函されていないかどうかのご確認をお願い致します。

特に、ご自宅等の郵便受の投入口が、印刷教材等の小包を投入できない大きさの場合、教材等の代わりに、ご不在連絡票が投函されている場合がありますので、ご注意ください。

ご不在連絡票が、投函されていた場合は、速やかに、指定の郵便局に受取方法をご連絡ください。

2. 現住所が変更になった場合は、全国各学習センターへ「住所等変更届」をご提出いただくとともに、速やかに、最寄りの郵便局へ転居届をご提出ください。

## 放送大学「情報リテラシー教育」実施のお知らせ

放送大学では、本学の学生を対象にコンピュータの利用方法を入学後の早い時期に習得できるよう、「情報リテラシー教育」を実施しています。

この講習は主に、パーソナル・コンピュータを利用するのが初めての方、あるいはこれから利用してみたい方等を対象に実施するもので、受講による単位修得はありません。興味のある方は是非ご参加ください。

なお、平成15年度第2学期の実施日時、受講定員、申込方法等の詳細については、実施予定学習センターにお問い合わせください。

### 「情報リテラシー教育」の実施概要

- 1 実施予定学習センター ・埼玉学習センター・千葉学習センター  
・東京世田谷学習センター  
・東京文京学習センター・東京足立学習センター  
・東京多摩学習センター・神奈川学習センター
- 2 講習内容 コンピュータの利用  
ワープロソフトの操作方法  
ファイル操作 インターネット  
電子メール等
- 3 講習時間 10:00～17:55
- 4 受講申し込み 受講したい学習センターで受講料2,000円を添えてお申し込みください。

(注)講習時間、申込方法等については学習センターによって異なる場合があります。

## 編集後記

先日、ある学会で、東洋を専門とする方が、西洋の研究者は東洋のことを知らなくても平気である、という趣旨を語っていた。西洋のことを専門とするわたしには、大変耳の痛い言葉だった。第一にまさしくそのとおりであるし、第二に、その上西洋のことだって実は怪しい、と思えたからである。もちろん、こう感じたのだから、本当は平気ではない。

学問の専門化がますます進むなかで、本学のような教養学部存在意義が高まっている。教養とは何でも知ることではなく、とりあえずは自分を基盤に、知識の網の目を広げ、それを批判的に再構築していくことだといえよう。たまたま日本に生まれ、そこで生活し研究している者にとって、そのような自己陶冶をするうえで、東洋や日本のことを知らずにはいられない。このことの自覚だけはあるのだが、なかなかうまくいかない。

(山岡龍一)

### 大学通信編集委員会

(平成15年度)

委員長	教授	阿部 齊
副委員長	同	徳丸吉彦
委員	同	香山壽夫
〃	助教授	山岡龍一
〃	同	坂井素思
〃	同	大橋理枝

(編集事務担当

教務部修学指導課)



## 放送大学学園

<http://www.u-air.ac.jp/hp>  
ISSN 1343-3369

R100